

Principal Correspondence

サンタクロースが訪れる小学校

2018年 今年もプリンセスリリーから素敵なお知らせが届きました

プリンセスリリー公式声明

サンタクロースは本当にいます
それは時に見えないこともあるけれど
サンタクロースが人々の善意の象徴とするなら
彼はみんなの心のなかに確かにいます

今年も1年間 精一杯泣き笑い
すくすく元気に大きくなったあなたには
特別にクリスマスアッセンブリーの日にお会いに来るでしょう

今年1年の成長とあなたを見守り 慈しんでくれた人々に感謝し
来年はもっと優しく強い子になりますように・・・願いをこめて

PRINCESS LILY



クリスマスは、例えキリスト教徒でなくても、大人にも、子どもにとっても1年の終わりの最も楽しい行事です。夕暮れの雑踏、街の飾り、光り輝くイルミネーション、歳末助け合いの声。子どもたちはサンタクロースのプレゼントに心躍らせ、大人はあたりまえの幸せに感謝し、1年間の無事と成長を祝うとき……。人の善意をサンタクロースというなら、忙しい12月ではありますが、この月こそ人に優しく過ごしたいもの。その優しさは、子ども達に伝わり、周りに広がって多くの人に生きる喜びをもたらしてくれるでしょう。

1年のおわりにリリーベールでは「クリスマスアッセンブリー」で皆様に至極の時間を提供します。



Principal Correspondence

クリスマスは王者のイベント？



クリスマスがやってきます。アメリカは、多人種多宗教の社会。最近では「メリークリスマス！」に抵抗を感じる人が少なくないという理由で「ハッピーホリデー！」という言葉が代用されているそうです。しかしこれはやりすぎだと思えます。

別の例で、会議の議長「チアマン (Chair man)」は男のマン「man」が男女差別だと言って「チアパーソン (Chair person)」と言い換えたりしますが個人的には、別によいのではないかと思ってしまう。こういうリベラルの言葉狩りをPC (ポリティカル・コレクトネス)と言います。



クリスマスは、聖人セント・ニコラウスが貧しい人に施しをしたことから、チャリティの精神でプレゼントを贈り合い、年越しが心安らかに迎えられるようにとの趣旨で、全世界で「普遍性」を持つお祭りです。数々のクリスマスソングは賛美歌ではなくとも美しく、人の気持ちをほっこりとさせてくれます。リリーでは一番大事なイベントです。

他に、国民的イベントとなつて久しい「バレンタインデー」。外国では男性が女性に「愛を告白する日」で、日本のように女性が男性にチョコを贈るということはありません。何か商業ベースに躍らされている感もありますが、「経済効果」と「愛の告白のチャンス」という意義はあるでしょう。



一方、今や1,300億円という市場規模に拡大したハロウィン。元々はヨーロッパの北に住むケルト人が10月31日を大晦日と定め、先祖たちの霊を家に迎えるという祭りで、そのときに悪霊もついてきてしまうので、悪霊たちから身を守るため、魔除けの仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いたと言われています。

しかし、盛んなのはアメリカと日本だけで、英国などでは「何それ？」という感じ。悪乗りが過ぎる一部の若者たちを見ると何かただの大騒ぎで「普遍性」を感じられません。

元々日本人は多宗教で、仏教の宗徒、門徒、神道の氏子、キリスト教の信者を足すと人口の2倍、すなわち2億人以上になるそうですから、何でも受け入れる大らかさは素晴らしいと思えます。

要は自分の信じるものを信じ、楽しみたいものに参加すればよいだけの話ですが、何でも流行に乗るのではなく、しっかりと考えて生きていきたいものです。

